

別記様式第2号

持続的生産強化対策事業のうちジャパンフラワー強化プロジェクト推進に関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	九州農政局
					達成すべき目標	目標値	基準年	目標年	達成率		
							令和4年度	令和6年度			
福岡県	—	花あふれるふくおか推進協議会	花き	R5	活動区域における花きの消費量又は消費金額を基準値から3%以上増加	6,428円	(H30~R4) 6,240円	6,163円	-41%	<ul style="list-style-type: none"> ・花きの展示、飾花及び若年層への花育体験の実施による県産花きの認知度向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設や大規模イベント等での飾花や児童を対象とした花育活動を行うことで、県産花きに触れる機会を増やしたものの、目標未達成となった。 ・集出荷の効率化や輸送コスト低減による出荷量の増加に向けた取り組みや、出荷量の増加、品質の向上を目的とした実証試験を行い、構成団体と結果の共有を行い、今後の栽培や流通の検討を行ったものの、物価高騰の影響もあり、目標未達成となった。 ・今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取り組みを指導する。
					活動区域における花きの販売業者の取扱数量又は販売金額を基準値から3%以上増加	5,974 百万円	(H30~R4) 5,800 百万円	5,793 百万円	-4%		

佐賀県	—	佐賀県 花づくり推進 協議会	花き	R5	佐賀市における1世帯当 たりの切り花年間購入 金額を基準値から3%以 上増加	8,874円	(H29~R3) 8,615円	7,963円	-252%	・「フラワーフェスティ バル」の開催	・フラワーフェスティバルの開催、駅等でのフラ ワーアレンジメントの展示や花の教室を実施し たが、物価高騰等で消費が停滞し目標未達成と なった。事業実施主体に対して改善計画の提出 を求め、達成に向けた取り組みを指導する。
					本事業で実証した技術 を活用した経営体にお ける対象品目（バラ）の 10a当たりの出荷数量を 基準値と比較して5%以 上増加	58,061 本	(R2~R4) 55,296本	76,623本	771%	・UV-B電照の導入による 病害虫低減効果及び出 荷本数への影響につい ての実証試験	・UV-B 電照導入の実証の結果、病害虫を低減す ることができ、秀品率と出荷本数が増加し、目標 達成できた。
長崎県	—	長崎県 花き振 興協議 会	花き	R5	活動区域における花き の10a当たり収量又は秀 品率を基準値から3%以 上増加	93,200 本/10a	(H29~R3) 90,429 本/10a	90,441 本/10a	0.4%	・カーネーション栽培に おけるUV-B照射による ハダニ防除効果の実証 ・カーネーション栽培に おける収量・品質向上・ 省力化に向けた日射比 例かん水技術の実証	・夏季の異常高温のため生育停滞に伴う開花遅 延が起り、年内出荷量が減少し、目標未達成と なった。
					活動区域における花き の消費量又は消費金額 を基準値から3%以上増 加	11,900 円	(H30~R4) 11,549円	8,956円	-739%	・ながさき花の展示・商 談会」での実需者向け県 産花きプロモーション	・嗜好品である切花等の購入を抑える傾向が続 いているため、目標未達成となった。 今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を 求め、達成に向けた取り組みを指導する。

熊本県	—	熊本県 花き協会	花き	R5	活動区域における花きの流通経路間における積載効率を基準値から3ポイント以上向上、又は労働時間を基準値から3%以上削減	3.88h	(R3) 4h	3.88h	100%	・流通効率化に係る台車を使用した物流実証	・花き集荷場におけるトラックへの花きの積込みにおいて、連結可能な台車の使用により、トラックまでの台車を往復する回数が減ったことで、労働時間削減につながり、目標達成できた。
					活動区域における花きの10aあたり又は単位数量当たり労働時間を基準値から3%以上削減	51.41h	(R3) 53h	46.00h	440%	・多機能カーテンを用いた生産技術実証	
大分県	—	大分県 花き産業振興協議会	花き	R5	活動区域における需要に応じた花きの作付け面積を基準値から3%以上増加	10a	0a	46.7a	467%	・ホームユース需要に対応した品目等の転換の取組	・県域全体で花木類の産地化を進めるにあたり、新たな導入品目4種類の花木類（ナンテン、コニファー、サンゴミズキ、ヒメミズキ）を新植することで、目標達成できた。
					活動区域における花きの新たな販売形態又は販路を1つ以上増加	2個	1個	2個	100%	・企画会議、検討会の開催 ・フラワーフェスティバル等イベントの開催 ・花育体験の実施	
宮崎県	—	「みやざき花で彩る未来」推進協議会	花き	R5	事業実施主体の活動区域における花きの10a当たり収量を基準値又は経営指標から5%以上増加	57,766本	55,015本	66,377本	413%	・需要変化に対応した品目、品種の検討（洋マム） ・落蕾防止のためのLEDによる補光効果の実証及び新品種現地実証（スイートピー）	・産地に適した品種や落蕾軽減技術、省力的かつ減肥可能な技術実証によって適正品種の選定に繋がり反収の増加につながり、目標達成できた。

										・かん水施肥栽培の実証 及び新品種現地実証（ラ ナンキュラス）	
					活動区域における花き の消費量又は消費金額 を基準値から3%以上 増加	6,359円	6,174円	8,961円	1506%	・大人向け花育及び小中 学校での花育体験実施	・生花店・園芸店において、気軽に来店できる環 境づくりに取り組み、花に親しむ機会を創出し、 花のある生活の推進が花き類の消費金額が増加 につながり目標達成できた。
鹿 児 島 県	—	鹿 児 島 県 花 き 振 興 会	花 き	R5	活動区域における花き の流通経路間における 積載効率を基準値から3 ポイント以上向上	24,009 本/コン テナ	23,310 本/コンテ ナ	30,462 本/コンテナ	1023%	・スマートフラワー規格 出荷による流通コスト 低減の実証・検討	・関係者と一体となりスマートフラワー規格出 荷体系を確立し、1コンテナ当たりの出荷本数が 増加する等積載効率の向上による流通コストの 低減や適正な脱葉範囲の決定による廃棄物の削 減が図られ目標達成できた。
					活動区域における花き の新たな販売形態又は 販路を1つ以上増加	新 た な 販 路 1	—	新 た な 販 路 1	100%		・スプレーギクのスマートフラワー出荷規格体 系の及び出荷箱の見直しにより、これまで販売 実績がない販売先（卸売市場）を新たに開拓で き、目標達成できた。

(注1) 成果目標の達成状況欄に達成状況の経過を記載すべき事業にあっては、適宜列を挿入し記載するものとする。

(注2) 達成率は、(目標年度実績－基準年度実績) / (目標値－基準年度実績) × 100を記載すること。

別記様式第2号

持続的生産強化対策事業のうちジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業に関する事業評価票

都道府県名	市町村名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			具体的な取組内容	九州農政局 農林水産省生産局、政策統括官、地方農政局（北海道農政事務所、内閣府沖縄総合事務局）の評価所見
					達成すべき目標	目標値	基準年 令和2年度	目標年 令和6年度	達成率		
福岡県	—	花あふれるふくおか推進協議会	花き	R3	活動区域における花きの10a当たり収量の増加（輪ギク）	40,950本/10a	(H26～H30) 39,000本/10a	37,905本/10a	-56%	・秋ギクにおける実需者が求める出荷規格に対応する栽培技術の実証	・輪ギク、スプレーマム、ガーベラの炭酸ガス施用による階級の向上を実証できたが、高温による開花遅延や苗の定植遅れ、半身萎凋病の発生により収量が減少し、目標未達成となった。 ・スプレーマムにおける実需者が求める出荷規格に対応する栽培技術の実証 ・ガーベラにおける炭酸ガス施用に対応する栽培技術の実証 ・低エタノール還元消毒の効果の実証は確認できたが、高齢化や資材高騰の影響から、生産者数、生産面積が減少し、出荷本数の確保ができず、目標未達成となった。
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加（スプレーマム）	39,900本/10a	(H29～H30) 38,000本/10a	36,746本/10a	-66%	・スプレーマムにおける実需者が求める出荷規格に対応する栽培技術の実証	
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加（ガーベラ）	217,000本/10a	(H26～H30) 206,518本/10a	197,886本/10a	-82%	・ガーベラにおける炭酸ガス施用に対応する栽培技術の実証	
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（トルコギキョウ）	3,024,500本	(H26～H30) 2,749,532本	2,442,547本	-112%	・トルコギキョウにおける低濃度エタノール還元消毒の立枯症発生低減効果の実証	

				活動区域における花きの10a当たり収量の増加（カーネーション）	71,583本	(H25～H29) 68,174本/10a	62,160本/10a	-176%	・EOD-heating（日没後昇温管理）によるカーネーションの収量増加	・EOD-heatingにより、切花品質は変わらずに収穫本数を増やすことができたが、燃料高騰の影響で加温温度を下げたことにより、収量が伸び悩み、目標未達成となった。
				活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（バラ）	79.2円/本	(H29～R1) 72.0円	81.0円	125%	・バラにおける流通病害の発生抑制技術の実証	・収穫後の薬剤処理による病害発生抑制効果が確認でき、日持ち改善に繋がったこともあり、単価が向上したことで、目標達成できた。
				活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（ダリア）	500,500本	(H26～H30) 454,969本	298,590本	-343%	・ダリアにおける収量増加技術の実証	・炭酸ガス施用による開花に及ぼす効果は確認できたが、生産者の減少や燃料高騰の影響で加温温度を下げたことにより、収量が伸び悩み、目標未達成となった。
				活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（リンドウ）	99,000本	(H27～H31) 89,910本	128,640本	426%	・採花後の管理・鮮度保持技術等によるリンドウの品質向上の実証	・遮光資材による高品質化・収量向上等により、生産量が増加するとともに、鮮度保持剤の品質維持効果により販売量が増加し、目標達成できた。
				活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（クルクマ）	1,474,500本	(H27～H31) 1,340,238本	966,350本	-278%	・入本数増加によるクルクマの出荷コスト低減の実証	・入本増加が品質に与える影響は確認できたが、夏場の販売数量が減少し、目標未達成となった。
				活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（ユーカリ）	65,600本	(H27～H31) 32,783本	20,950本	-36%	・採花後の管理・鮮度保持技術等によるユーカリの品質向上の実証	・採花後の管理・鮮度保持技術は実証できたが、生産者2名が栽培をやめたため、販売数量が減少し、目標未達成となった。

					カリ)						
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（アジサイ）	10,000本	(H31) 2,580本	19,637本	230%	・オリジナル品種の生態特性の把握による生産の安定化の実証	・オリジナル品種の生態特性を把握できたことで、生産の安定化につながり、目標達成できた。
					活動区域における花きの10a当たり収量の増加（花壇苗）	148,110本/10a	(H25～H29) 141,057本/10a	153,273本/10a	173%	・緑色LED防蛾灯を用いた花壇用苗物のヤガ類被害軽減と防除コスト低減の実証	・緑色LED防蛾灯を用いて夜蛾類の被害軽減により出荷ロスの軽減につながり、目標達成できた。
					活動区域における花きの生産又は販売の数量若しくは金額の増加（洋ラン）	58,281,000円	(H29～R1) 52,982,409円	83,837,386円	582%	・補光用LEDを用いた洋ランの品質向上効果の実証	・補光用LEDを用いることにより品質が向上し、秀品率が増えて単価アップにつながったことで販売金額が増加したため、目標達成できた。
					活動区域において花育又は園芸体験を受講したものの花きの購入数量又は購入金額が受講前に比べて増加	花育後の花き購入数量が実施前に比べて増加したものが30%以上	(R6) 花育の受講者数 (320人)	30% (96人)	100%	・花育体験、園芸体験等による花きの活用促進	・19の小学校でアンケート調査を実施したところ、花育後の花き購入数量が実施前に比べて増加した方が30%以上となり、目標達成できた。 ・未達成の目標については今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取り組みを指導する。
佐賀県	—	佐賀県花づくり推進協議会	花き	R3	活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加	5,268円	(H29～R1) 5,017円	5,780円	304%	・各戦略品目の課題に応じた生産、流通、消費拡大に向けた取り組みの実施・展示PR、	・フラワーフェスティバルの開催、駅等でのフラワーアレンジメントの展示、花の教室を実施し、県産花きのPRし、園芸用植物や園芸用品（鉢物、花苗等）の消費拡大につながり、目標達成できた。

										小学生を対象とした 花育体験の実施	
長崎県	—	長崎県 花き振 興協議 会	花き	R3	長崎県内における 花き生産金額の増 加	90.2 億円	(H26～H30) 82億円	89億円	85%	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化機械・施設による省力化・低コストの実証 ・実需者・消費者ニーズに対応した新品種の選定及び安定生産・計画出荷のための栽培技術の実証 ・全国市場関係者や小売店を対象とした展示会の開催 	新型コロナウイルス感染症影響により消費が低迷低下した消費は、技術実証や消費拡大等の取組により回復しつつ単価も向上しているが、長崎県主要品目である輪ギクの作付面積の減少が影響して、目標未達成となった。
					活動区域内における花きの消費金額の増加	9,019円	(H28～R2) 8,589円	6,646円	-452%	<ul style="list-style-type: none"> ・県産きく消費拡大プロモーションの実施 ・全国市場関係者や小売店を対象とした展示会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市内切花の1世帯あたりの年間購入額の増加に向け、イベント等を活用して消費拡大プロモーション活動の取組や、市場関係者や生花店等を対象とした展示会を開催したが、目標未達成となった。 ・今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取り組みを指導する。

熊本県	—	熊本県 花き協会	花き	R3	活動区域において 花育または園芸体験を受講した者の 花きの購入数量または購入金額が受講前 に比べて増加	受講後の 花きの購入金額等 が受講前に比べて 増加した 者が30% 以上(88.8 人)	(R6) 花育体験の 受講者数 100%(296人)	26%(78人)	88%	・アレジメント教室、 コンテスト及び花き 市場社会見学等による 花育の実施 ・消費者の花き産業への 理解促進	・R3の花育や園芸体験実施後は、花きの購入を増や したいとアンケートに回答した家庭は7割程度であ ったが、目標年のR6は、26%に留まり、目標未達成 となった。 ・今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求 め、達成に向けた取り組みを指導する。
大分県	—	大分県 花き産業振興 協議会	花き	R3	活動区域における 花きの販売業者の 取扱数量又は販売 金額の増加	307,566千 円	(H25~H29) 292,920千円	194,800千 円	-670%	・公共交通機関での花 文化展示及びスイー トピーPR ・フラワーアレンジ教 室、デザインコンテ スト等の実施 ・フォトスポットオブ ジェによるPR ・小学生を対象とした 花育体験の実施	新型コロナの影響で冠婚葬等の減少や物価高の影響 から花きの消費が減少し、販売金額も低下している。 花育活動等のイベントを実施し、県内の花屋が県産花 きを使用した花束を家庭に届ける取組で新たな家庭 需要の創出による県内花きの消費拡大を図っている が、目標未達成となった。 ・今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求 め、達成に向けた取り組みを指導する。
宮崎県	—	「みや ざき花 で彩る 未来」 推進協	花き	R3	活動区域における 花きの10a当たり 収量の増加【スイ ートピー】	212,512本 /10a	(H30) 202,400 本/10a	190,639 本/10a	-116%	・地域オリジナル耐暑 性品種の選定及び栽 培実証 ・染色技術の強化実証	・品種によって高温障害の発生率が異なるため、定植 時期を検討し、安定して開花する能力をもつ品種の選 定が図られたが、曇雨天の影響で落蕾が発生により収 量が減少し、目標未達成となった。

		議会		活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加【スイートピー】	15,678円	(H26~H30) 14,931円	19,857円	659%	・メディア等を活用したPR発信 ・花育体験、園芸体験等による花きの活用促進	・TVやSNSでの1月21日「スイートピーの日」のPRや花育ではスイートピーを中心としたアレンジ体験等を通し花のある生活を推進したことが消費拡大につながり目標達成となった。
				活動区域における花きの10a当たり収量の増加【ランキュラス】	61,125 本 /10a	58,214 本/10a	47,844 本/10a	-356%	・球根養成の実証 ・遮熱対策の実証	・球根の養成が安定化の実証と定植初期の高温遮熱対策の実証を実施したが、長期間にわたる高温の影響により収量の低下し、目標未達成となった。
				活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加【ランキュラス】	15,678円	(H26~H30) 14,931円	19,857円	659%	・メディア等を活用したPR発信 ・花育体験、園芸体験等による花きの活用促進	・TVやSNSを活用し新品種やオリジナル品種など個性的な品種のPRや花育ではランキュラスを中心としたアレンジ体験等を通し花のある生活を推進したことが消費拡大につながり目標達成となった。
				活動区域における花きの10a当たり収量の増加【キイチゴ】	8,201 本/10a	7,810 本/10a	17,816 本/10a	2,559%	・キイチゴ「ベビーハンズ」苗の安定供給体制実証	・苗の供給量を分散させることで、安定した供給体制が構築された収量が増加し、目標達成となった。
				活動区域における花きの消費量又は消費金額の増加【キイチゴ】	15,678円	(H26~H30) 14,931円	19,857円	659%	・メディア等を活用したPR発信 ・花育体験、園芸体験等による花きの活用促進	・TVやSNSでのPRや花育ではランキュラスを中心としたアレンジ体験等を通し花のある生活を推進したことが消費拡大につながり目標達成となった。 ・未達成の目標については、今後、事業実施主体に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取り組みを指導する。

鹿 児 島 県	—	か ご し ま 花 消 費 拡 大 推 進 協 議 会	花 き	R3	活動区域における 花きの生産又は販 売の数量若しくは 金額の増加	28,177 千本	(H26~H30) 25,615 千本	19,808 千本	-227%	・生産・加工・流通に おける品質管理技術 等の導入実証	・コロナ禍の影響等で冠婚葬祭等の需要の低迷する 中、生産・加工・流通における品質管理技術等や生産 者と実需要者との連携促進を実施し、消費は回復して いるが、生産現場の担い手の減少等による影響もあり 目標は達成できなかった。 ・未達成の成果目標については、今後、事業実施主体 に対して改善計画の提出を求め、達成に向けた取り組 みを指導する。
					活動区域における 花きの販売業者の 取扱数量又は販売 金額の増加	10,156 千本	9,672 千本	6,305 千本	-696%	・流通関係者を交えた 品質調査の実施	

(注) 成果目標の達成状況欄に達成状況の経過を記載すべき事業にあっては、記載例を参考に列を挿入し、記載するものとする。